

拝啓

秋も深まり爽やかな風が心地よく感じられる季節を迎え
ました。皆様お元気で過ごして下さるか。

高校一年生の長男は夏休み明けも順調に登校しており、
高校生活を楽しくしているようです。夏休みの宿題が可べ
できなかったのが親は分からず「気苦労しましたか」、親の知らない
うちに何とかしてゆく。これも先生方の支援を受け、
干渉は極力控え子供に任せるようにして下さるようお願い
いたします。おそらく支援を受けなければ「高校には行けず」、
まだ部屋に籠っていらるうと思っております。親子とも支えて
いた下さり、ありがとうございます。

長男は中学二年生の夏休み前から行き渋りが始まり、
夏休み明けから不登校と化してまいりました。きっかけは
部活の友達とのトラブルのようですね、担任の先生、部活
の先生とも相談しトラブルはなんとか取りぞうでしたが、
もっと根は深いところにあったのだと思っております。「僕には学校
はいらない」と部屋の中に籠って、ゲームとアニメに没頭し、
食事も部屋の中でとり、部屋から出てこなくなりました。
ネットで不登校の情報を調べたり、本を読んだり
したりとこそ、不登校についての対応には様々なもの
があるようです。そのうちの一つは、子供の状態を受け入れ
暖かく見守り、自己肯定感を持つるようは声かけや対応を
するといふものでした。子供自ら動き出せるのがいいの
だと思いましたが、時間がかかるように感じました。

一方、学校へ行けていないことで子供自身が受けてしまうダメージはとて大きいように感じました。年の離れた次男に長男がきつく当たると、時には蹴ってしまったりと、次男もおかしくなってしまう、玄関で座り込み僕も学校に行かないと言ってしまうことがありました。それに反して長男は「学校に行かなくちゃいけないだろう!」と次男を怒鳴りつけ荒やまくり、次男も親も混乱してしまいました。その言葉で長男は本当は学校へ行きたいと強く思っていることを確信するとともに、学校へ行けていない長男の心身のダメージは取り返しがつかないほど大きくなっているとも感じ、復学支援を探してペアレンツキャンプに1人だけ着きました。水野先生の書籍も読み、これまでの子育ては先回り、提案・命令・指示ばかりで、子供に失敗する経験をさせてあげないものだったと分かり、大いに反省しました。そのまま不登校を見守っていても子供自ら立ち上がる力をこれまで培ってこなかったのだとおそらく長男は動かさぬことは出来なかっただろうと思います。復学支援をしていてはいい、当初に指導していた「冷たい対応」は最初に取り組んで「暖かい対応」と正反対のやりにも思え、親も辛く感じることもありました。長男は次第に変わり、部屋を出てリビングで食事を取るようになり昼夜逆転もはかばかしくなっていました。そしてダイレクトアプローチを受け、長男は学校へ行きたいと言い、訪問の先生と復学の準備を始めると明るく元気になっていきました。そして復学し、

親子とも行けたいと思っていては修学旅行、合唱コンクール、
体育祭といった行事にも参加する事ができました。
時には休んでしまったこともありました。先生方に支えられ、
親の対応も指導いただき、登校を続ける事ができました。
おそらく先生方のサポートのおかげは「継続登校も難し
かった」と思います。また我が家で夫婦で意見が
合わないことも多く、辻先生には親子間のみならず
夫婦間の意見の伝え方も教えていただき大変お世話に
なりました。高校もほとんどが決まり、少し遠いため行ける
かどうか心配もした。高校に入るとますます元気に
なっていく。また提案してしまったり、干渉して
しまったりと親の対応には課題がみありますが、先生方の
教えを心に刻み子供を信じて自立に向けて頑張ってい
きたいと思っております。

先生方は全国各地を回られお忙しい中おこ
していることと存じますが、ますますの健康と活躍を
心よりお祈り申し上げます。これからも本当にありが
たうございました。

敬具

2018年9月28日